

令和7年度 江戸川区立清新ふたば小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○知 しなやかな子ども（自ら学びに向かい、知識を知恵に変え、行動できる子ども）○徳 おだやかな子 おだやかな子ども（相手の気持ちを大切に、あたたかでぬくもりのある学校づくりの担い手となる子ども）○体 すこやかな子ども（心身ともに健康な生活を意識して送ろうとする子ども）		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・地域に根ざした教育を実践する学校づくり・子どもが「明日も学校へ行きたいな」と思える学校づくり・教職員が子どもの成長や、やりがいを感じる学校づくり
前年度までの本校の現状	成果	○保護者・地域の方々の協力のもと、落ち着いた校内環境を維持しながら教育課程を進めることができた。 ○日々の授業改善に力を入れたことで、児童にとって「明日も行きたい」と思える学校になってきている。	課題	○基礎的・基本的な知識の定着はもちろんのこと、問題解決に向けた思考力・判断力等を活用する能力の向上。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得。家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・既習事項を活かした問題解決的学習の実施 ・東京ベーシックドリルの取り組み ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	・児童一人一人の学習状況に即した学習指導の充実 ・東京ベーシック診断テスト正答率80% ・授業内における活用100%	B	B	B	・個々に合わせた学習指導が継続できている。 ・基礎基本、基礎知識問題は、定着しつつあるが、思考・判断・表現力の問題が課題である。 ・有効活用はできている。	B	・児童が興味・関心もてる授業を行ってほしい。 ・授業を通してできた、わかったと言える児童をもっと増やしてほしい	B	・UDLの研究を通して学習の見通しがもてるようになった。 ・東京ベーシックドリルは正答率は79.8%であったが、記述式の問題に課題が残った。 ・ICT機器を使用することで、学習発表が充実した。効果的な活用実感度89%（昨年度比+24%）	B	・これからも児童が興味・関心もてるような学習活動をしてほしい。	・今まで研究したUDLの視点での学習活動。 ・思考力、判断力、表現力の向上。
	○読書科の更なる充実	・読書科授業の充実35時間。 ・総合的な学習や各教科と関連した探究的な学習	・読書好きな児童80%以上 ・調べ学習が楽しい70%	B	A	A	・興味をもって読書をすすめるように担任が声かけを行っている。 ・中学年、高学年では調べ学習を主体に総合的な活動の時間に活かす題材を行った。	B	・興味をもって読書をしている様子が伺える。 ・各教科で培われた知識や基礎があるからこそ総合的な活動の時間がいけるので各教科の基礎学習も大切にしてほしい。	A	・読書に興味をもつことで、読書好きな児童が概ね80%になった。家で学習や読書をする習慣の定着度が74%であった。 ・教師が工夫を重ねた結果、調べ学習に対して意欲的に活動する様子が見られた。	A	・読書することで、学習の基礎基本や知識を広げることができる。また、他教科にも良い影響を与えるので読書科をより充実してほしい	・総合的な学習の時間の横断的な学習設定。 ・読書科に関連した総合的な学習の時間の指導計画時間の見直し
体力の向上	○運動意欲や体力の向上	・休み時間を活用した「運動遊び」の全校実施	・休み時間の外遊び参加率90%	B	A	B	・4月当初は積極的に外遊びをしていたが、参加していない児童が徐々に増えている。	B	・外遊びの魅力を児童に伝えていってほしい。	A	・寒い中でも楽しく遊べるように「ふたばスポーツタイム」を設定し、参加率が90%以上になった。。	A	・児童が楽しめるように外遊びが継続的にできるよい。	・ふたばスポーツタイムの充実
	○個に応じた体力向上のための取組	・学期に1回実施するなわとびウィークや12月の持久走記録会に向けた練習等の設定・充実	・学期ごとに意図的に運動習慣を設定する	A	A	A	・個に応じた、体力向上をどのようにすすめていくか学校全体で考え計画を考え、すすめた。	A	・一人一人に対して充実した体力向上の取り組みをしてほしい	A	・なわとびウィークや持久走記録会など学校全体で行い、児童は積極的に活動をした。	A	・今後も児童のために個に応じた体力向上の取り組みをすすめてほしい。	・ウィークポイントに特化した活動の充実
実現に向けた共生社会の推進	○特別支援教育の推進	・UDLの視点を取り入れた授業改善。	・UDLを取り入れた研究授業を年間3本実施	A	A	A	・年数を重ねた結果、全職員がUDLに対する理解を深めている。	A	・児童一人一人への配慮を考えるととても重要である。	A	・UDLの視点で研究授業を行い、授業のすすめ方が理解できた。	A	・これからも研究授業をすすめ、より研鑽してほしい。	・UDLの視点での学習活動の充実
		・特別支援委員会の充実	・週1回15分情報共有の時間を設定	B	A	B	・SC、SSWとの話し合う時間を設定し、校内の印象について情報共有を行っている。	B	・外部機関を活用し、連携をとりながらすすめてほしい。	A	・情報共有の時間を設定することで児童の困り感が理解できた。	A	・共有時間をこれからも設定し、児童理解をすすめてほしい。	・児童理解の充実
		・特別支援教育研修会の実施	・教員研修、児童啓発授業を1回以上実施	A	A	A	・研修を行い、教員は意欲をもって参加している。	A	・児童一人一人に配慮するために特別支援教育の研修会を行うのはとてもよい。	A	・年度末に啓発授業を行った。特別支援教室担当教員からの指導で児童はさまざまな学びを得た様子であった。	A	・多様性の時代であるため様々な視点での授業展開（授業啓発授業）は良いと思う	・担任以外の教員が授業をする機会を設定する。

不登校の・ 充いじめ め対	○「ふれあい月間」を中心 に据えた、道徳教育の 充実	・いじめを題材にした道徳 授業を定期実施	・ふれあい月間にお いて「いじめ」に 関する授業を1回以上 実施	A	A	A	・道徳の授業いじめに関する授 業を行った。また、ふれあい月 間を行った結果を全体で情報共 有した。	A	・授業を参観し、児童の心情を 知ることができてとてもよかつ た。	A	・ふれあい月間や学校生活を振 り返りながら道徳の授業展開を したりふれあい月間の結果を情 報共有したりした。	A	・学校生活を関連させながら道 徳の授業をすすめてとてもよ い。	・いじめに関連した道徳 教育の充実
	OL-Gateの活用	・職員全体で学級の実態を 共有し、個別支援の充実	・週1回以上の情報 共有	B	B	B	・日々、L-Gateを活用し、児 童の実態について情報収集がで きている。	A	・情報収集がすばやくできるの はよい。	B	・情報収集していく中で、回答 部分に改善する余地があった。	B	・日頃の関りとうまくリンクで きればよい。	・質問項目については検 討し、改善を行う。回答 の記述方法の工夫する。
学校（園） 地域社会に 開かれた の実現	○自校の取組について の積極的な発信	・学校HPにおいて日々の 教育活動を発信とともに、 学校公開等を公開し、開か れた環境を構築	・行事ごとに内容を 更新する	A	A	A	・行事や校外学習、集会などは HPを積極的に活用し、発信し た。	A	・開かれた環境づくりはととも よいことである。	A	・学校公開など保護者が見たい と思うものに関しては複数枚の 写真を掲載するように工夫をし た。	A	・これからも開かれた環境づく りをすすめてほしい。	・HPの有効活用
	○学校関係者評価の充 実	・全校統一した重点項目に よる評価の理解	・江戸川区の施策実 現に向けて学校評価 を行う	A	A	A	・課題を解決するためにどのよ うにしていくのか改善点を講じ ていく。	A	・今後も学校生活の様子を伝え てほしい。	A	・教育についてのアンケート調 査を実施した。また、その結果 を伝えた。	A	・ICT機器の活用について非常 に肯定的でとてもよかった。	・アンケート内容を今後 の学校づくりにいかす。
教育の 特色ある 展開	○働き方改革の推進	・月2回の定時退勤日の設 置	・会議の精選 ・ICTを活用した分 掌の実施	B	B	B	・超時間勤務する職員はいない が、定時で退勤できている教職 員は若干増えてきている。	B	・ICT機器を利用することでメ リットやデメリットが出ている と感じる。	A	・ICT機器を効果的に活用しな がら会議を進め、会議時間が短 くなってきた。	B	・ICT機器の有効活用を考えつ つ、働き方改革を進めてほし い。	・ICT機器の有効活用。
	○教員研修の充実	・教員の組織的な育成、 OJT	・月2回を基準に、 研修の時間を確保す る	A	A	A	・OJT校務改善時間を設定し研 修をすすめている。	A	・実践していく中で、一つでも 多く、良かった点や改善点を見 つけてほしい。	A	・研修を進めた結果、改善した 成果がみられ、職場の雰囲気 がよくなってきている。	A	・校務改善ができてとてもよ い。	・教員研修の充実。